



ひまわりの種から油を!! 地球にやさしい バイオマス推進事業

松前町では、えひめバイオマスプロジェクトのモデル町として、昨年度よりひまわり

を栽培し、ひまわりの種から油を取って燃料などに活用する松前町バイオマス推進事業を行っています。

ひまわり栽培は、実績のある「NPOいよ環境センター」と「松前町まちづくり塾」、「東古泉地区」に委託し、中川原地区の3反、西古泉地区の2反、東古泉地区の2反で播種から収穫まで行いました。7月下旬から8月上旬には、夏の太陽に向かって咲くひまわりの花が楽しめました。



バイオマスとは

バイオマスとは、石油など化石資源以外の再生可能な資源のうち、ひまわりなど生物由来の有機性資源のことで、燃料や製品の原料として循環利用可能な、地球に優しい資源です。

バイオマス推進の目的

休耕田や耕作放棄地を活用してひまわりなどの油糧作物を栽培し、大気中の二酸化炭素を増加させないバイオディーゼル燃料（BDF）を生産・利活用し、循環型社会経済システムの形成、地球温暖化の防止、農地の保全、美しい景観形成などを目指しています。

ひまわりの栽培

中川原地区・東古泉地区では5月27日、西古泉地区では6月2日に地域の方や子どもたちが力を合わせてひまわりの種をまきました。



5月27日東古泉地区の種まき

7月下旬から、ひまわりの花が見られるようになり、中川原地区では、8月6日にひまわり祭りが行われました。写生大会なども行われ、大勢でにぎわいました。



8月6日中川原地区ひまわり祭にてバイオマス推進事業のPR

ひまわりの刈り取り

9月7・12・13日には、愛媛県と井関農機㈱の開発したひまわり収穫機（コンバイン）を使用して刈り取りを行い、他の事業で収穫した種も入れて、1,376キログラム収穫できました。

